

トラック輸送情報（平成15年10月分）

平成16年 1月 9日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

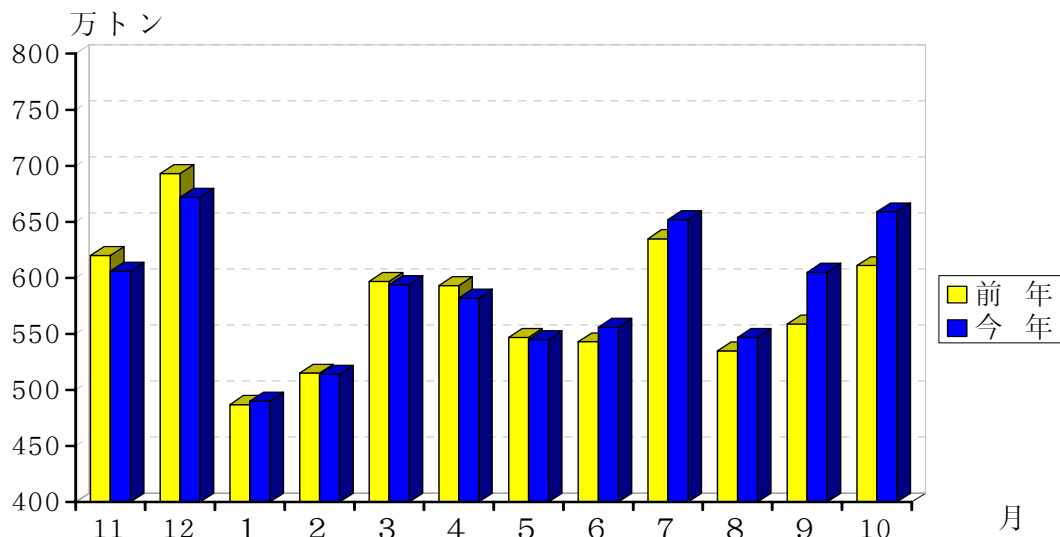
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

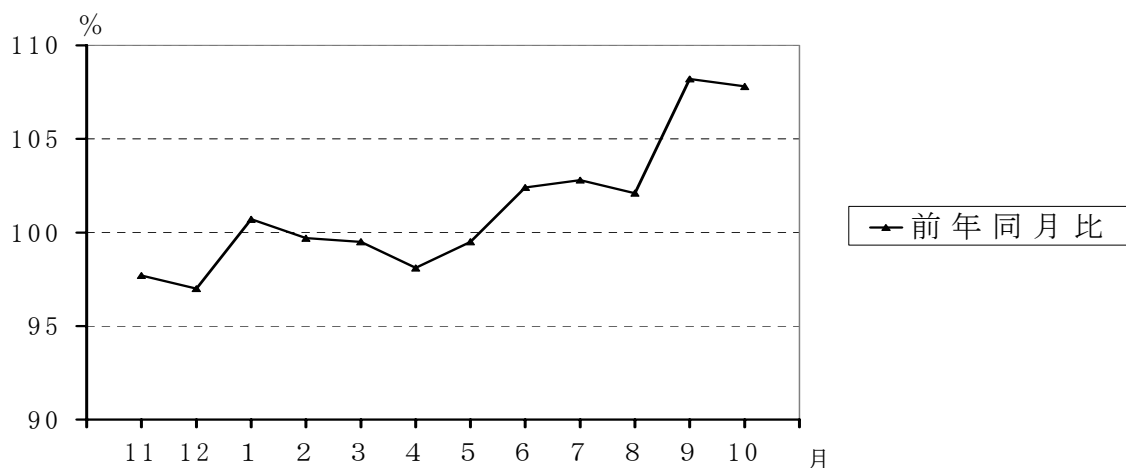
調査対象26社の本月の輸送量は6,591,603トンで、前月と比べ、総輸送量が約54万トン増加したため、前月比108.9%（季節調整済み100.4%）、前年同月と比べると、約48万トン増加したため、前年同月比107.8%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、24.3日で、前月と比べ、0.7日の増加、前年同月と比べると、1.1日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、271,259トンで、前月と比べ、約1.5万トン増加したため、前月比105.8%、前年同月と比べると、約3.1万トン増加したため、前年同月比112.7%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



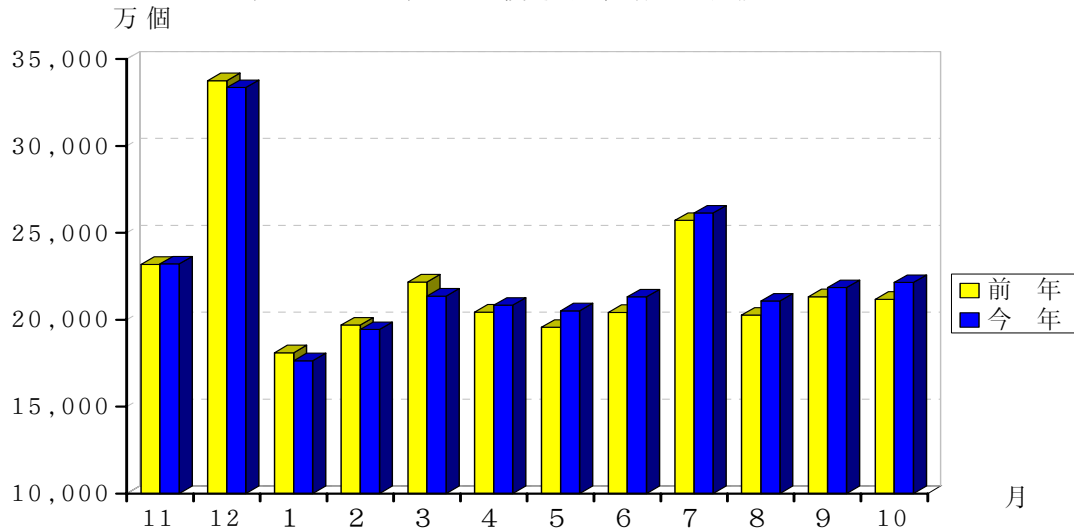
（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、221,518千個で、前月と比べ、約300万個増加したため、前月比101.4%（季節調整済み 97.4%）、前年同月と比べると、約976万個増加したため、前年同月比104.6%の実績であった。（図2-1、図2-2参照）

（図2-1）宅配便取扱個数の推移



（図2-2）宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、稼働日数が0.7日増加し、全ての品目において増加傾向にあった。中でも、日用品が全国において、工場・生産地、商社・問屋及び倉庫から出る貨物増、季節的需要増を主な理由として、繊維工業品が関東、北陸信越、中部、近畿において、工場・生産地からの貨物増、季節的需要増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、顕著な増減傾向は見られなかった。しかし、わずかながら、日用品が関東、北陸信越において、工場・生産地、商社・問屋、及び倉庫からの貨物増を主な理由として増加している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	4	10	2	農産品、米、畜産物	九州	4, 8
						野菜、青果物	東北、関東、北陸信越	4, 10
	金属製品	1	3	14	2	工具	関東、北陸信越、近畿	4, 7, 8, 9
						建築用金属製品	関東	4
	機械	2		18		機械部品	関東、北陸信越、近畿	4, 8, 9
	化学工業品	1	7	11	3	化学薬品、塗料、樹脂、紙・パルプ	関東、北陸信越、近畿	4
						化学薬品	関東	4, 5, 7, 9
	繊維工業品	3	6	13	1	織物	関東、北陸信越、中部、近畿	4, 8
	食料工業品	2	9	7	3	製造食品、加工食品、飲料	関東	4, 7
						飲料	東北、関東、北陸信越	4, 5, 7
	日用品	3	9	7	2	一般貨物、身廻品、日用雑貨	全国	4, 5, 7, 8
						日用雑貨	北海道、東北、関東、北陸信越	4, 7
その他	2	8	10		宅配貨物、百貨店配送品	全国	2, 4, 5, 8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		1	15	2	青果物	中国	4
						米	東北、関東、北陸信越	4, 10
	金属製品		3	14	3		九州	4
						建築用金属製品	関東、近畿	4, 7
	機械		2	15	3	産業機械、機械部品	関東、中部、近畿	4
						家電品、照明器具、機械部品	関東、近畿	4, 7
	化学工業品		4	15	3	化学薬品	東北、関東	1, 4, 7
						化学薬品、樹脂	関東	4
	繊維工業品		5	13	5	織物	関東、北陸信越、中部、近畿	4
						織物	関東、中国	4
	食料工業品		6	11	4	加工食品、飲料	関東	4, 5
						飲料	関東、近畿	7
	日用品		8	8	5	一般貨物、身廻品、日用雑貨	関東、北陸信越	4, 5, 7
						日用雑貨	全国	4, 9
その他		6	9	5	宅配貨物、百貨店配送品	全国	2, 4, 5, 7	
					宅配貨物	関東	9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 860社 / 調査対象事業者数 1,069社）の輸送量は、前年同月比101.3%、前月比106.6%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	101.3%	97.9%	99.6%	100.8%	103.2%	101.6%	102.2%	103.3%	105.3%	104.7%	99.6%
前月比	106.6%	109.3%	106.9%	106.1%	106.0%	103.6%	104.2%	106.8%	107.8%	106.1%	99.9%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、製糖用ビート(てんさい)、農産物の収穫期に関係する輸送が見られた事から、対前月比109.3%であったが、水産物が天候の影響により減少した事もあり、対前年同月比97.9%にとどまった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に灯油等の季節的需要が見込まれるものの、土木工事の減少があり、下降傾向にあるものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、季節柄、灯油等の「その他の石油製品」の輸送量もが増え、また前月に引き続き、農産物の収穫・出荷期に当たるため、輸送量が前月を上回った。しかし、冷害により収穫量が平年に比べ減少し、輸送量に影響したため、対前月比は106.9%、対前年同月比は99.6%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、行楽シーズンに伴い「日用品」が、秋の収穫に伴い「穀物」「野菜・果物」がそれぞれ増加したため、対前月比106.1%となった。また、対前年同月比は100.8%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にあり、厳しい状況が続くものと思われる。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、年末に向けて、公共工事等の需要が伸び、「砂利・砂・石材」「セメント」等の関連品目が増加した。また、新潟では、「穀物(米)」の出荷がピークを迎えたため、穀物が大きく増加した。このため、対前月比は106.0%、対前年同月比は103.2%と共にプラスとなった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にあるものと思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、首都圏での排ガス規制により、車両の代替が進まない事で荷主からの依頼が減少した事業者があった。しかし、雑具(「日用品」)の輸送が引続き、好調な事や、天候不順により、遅れていた作業の再開による土木関係品目の輸送増もあり、対前月比は103.6%、対前年同月比は101.6%と共に増加した。今後の見通しは、次月は横ばい、以降は減少傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、季節的な要因で、「野菜・果物(みかん)」や「金属製品」の増加が目立っている。また、工業製品関係の輸送増が見られたが、一時的な需要の伸びによるもので、来月以降にこの傾向が続くかどうか注視する必要がある。このため、対前月比は104.2%、対前年同月比は102.2%と共に増加している。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にあるものと思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、秋の収穫に伴い、「穀物」を中心とした農作物の輸送増が特徴的であった。また、建設・土木工事に伴う「砂利・砂・石材」の輸送があり、対前月比は106.8%、対前年同月比は103.3%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にあるものと思われる。</p>
四国	<p>本月の輸送は、秋の収穫期により「野菜・果物(みかん等)」が、また、冬期に向けて灯油等の「その他の石油製品」が、また建設工事等による「鉄鋼」「その他の窯業品」「砂利・砂・石材」がそれぞれ増加した事により、対前月比107.8%、対前年同月比105.3%と増加した。今後の輸送見通しは、次月は微増だが、以降は微減の傾向である。</p>
九州	<p>本月の輸送は、多くの事業者が前月と比べて輸送量が増加したとの感触を持っているようである。特に収穫期に伴う「農産物」、建設工事の増加に伴う「機械」、灯油等の需要増による「その他の石油製品」の輸送増が見られた。対前月比は106.1%、対前年同月比は104.7%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共にやや減少傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、マグロ等の漁獲期に伴う「水産物」、遊技場への「機械」の輸送増があった。逆にロールペーパー等の「紙・パルプ」の間屋・商社からの輸送依頼が減少した事もあり、対前月比99.9%、対前年同月比は99.6%とほぼ横ばいに落ち着いた。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に引き続き、ほぼ横ばい傾向にあるものと思われる。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	6	12	2	3	0	1	3	1	3	0	31
	減	0	2	0	1	0	0	0	0	2	0	5
2. 野菜・果物	増	2	2	2	2	0	2	0	2	4	0	16
	減	2	4	2	0	0	0	0	1	1	0	10
3. その他の農産品	増	12	0	1	0	0	0	1	0	1	0	15
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	5
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
5. 水産品	増	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	5
	減	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
6. 木材	増	3	3	0	0	1	1	2	0	1	0	11
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 砂利・砂・石材	増	3	4	0	5	1	0	3	2	3	0	21
	減	2	0	0	1	0	0	2	0	1	0	6
11. 工業用非金属鉱物	増	2	0	0	0	0	1	1	0	3	0	7
	減	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
12. 鉄鋼	増	2	2	2	1	1	2	1	1	0	0	12
	減	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
13. 非鉄金属	増	0	1	0	2	0	1	1	0	0	0	5
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14. 金属製品	増	2	0	4	2	0	3	1	0	1	0	13
	減	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
15. 機械	増	2	3	3	1	2	1	0	0	9	2	23
	減	0	1	1	0	0	1	1	0	3	0	7
16. セメント	増	1	1	0	2	0	0	2	0	2	0	8
	減	1	1	0	1	0	0	1	1	1	0	6
17. その他の窯業品	増	1	3	0	1	2	0	0	1	0	0	8
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

品 目		運 輸 局										
		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
19. そ の 他 の 石 油 製 品	増	4	7	3	3	1	1	1	1	5	0	26
	減	1	0	0	2	0	1	1	0	1	0	6
20. コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化 学 薬 品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
22. 化 学 肥 料	増	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	減	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4
23. そ の 他 の 化 学 工 業 品	増	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	5
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
24. 紙 ・ パ ル プ	増	2	1	1	0	1	0	0	2	1	0	8
	減	0	0	2	1	1	0	1	0	0	1	6
25. 織 維 工 業 品	増	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
26. 食 料 工 業 品	増	2	0	1	1	1	0	1	0	5	0	11
	減	3	3	0	0	0	0	0	1	7	0	14
27. 日 用 品	増	2	2	6	0	2	2	2	2	2	0	20
	減	1	0	3	0	1	3	1	0	1	0	10
28. そ の 他 の 製 造 工 業 品	増	1	2	0	0	0	1	1	0	4	0	9
	減	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
29. 金 属 く ず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. そ の 他 の く ず も の	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
31. 動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増	0	2	1	0	0	1	1	0	2	0	7
	減	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
32. 廃 棄 物	増	4	0	1	0	0	0	2	0	1	0	8
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
33. 輸 送 用 容 器	増	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	5
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
34. 取 り 合 せ 品	増	1	0	0	1	0	0	0	1	3	2	8
	減	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	5
35. そ の 他	増	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3
	減	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2